

シンガポールの日本語フリーペーパー「Asia X」

芹澤 隆道



媒体名：AsiaX（アジアエックス）

出版年：2004 年 7 月

出版者：—

出版地：シンガポール

判型：—

刊行頻度：月刊（＊ただし 2020 年 7 月に紙媒体での発行を終了）

ウェブ：<https://www.asiax.biz/>

「AsiaX（アジアエックス）」は、シンガポールを中心とする、東南アジアで働く日本人を対象とした日本語ビジネス情報メディアである。2004 年 7 月にシンガポール唯一の日本語無料ビジネスフリーペーパーとして創刊して以降、ビジネス情報誌として月刊されている（2017 年 4 月までは隔週刊行）。2020 年 7 月からは紙媒体での発行を終了し、完全オンライン化された現在では、Facebook、Twitter など各種ソーシャルメディアを使った宣伝が行われている。表紙（2020 年 7 月まで）にはシンガポールで活躍する日本人が掲載され、来星した経緯や現地で苦労したことなどが、インタビュー記事として特集されている。

令和 3 年度外務省が公表したシンガポールに在住する日本人は、3 万 6 千人ほどとなっていることから¹、日本の行政区分で言えば市（5 万人以上）に

は及ばないが、ある程度の規模を持つ町クラスのコミュニティと同等と想定してよいだろう。周知のように、シンガポールは東京 23 区（山手線圏内）より若干大きな土地に、570 万人が生活しており²、モナコに次いで世界で 2 番目に人口密度の高い国となっている。

ビジネスおよび金融の中心地として知られているシンガポールで発行されていることから、「AsiaX（アジアエックス）」に掲載されている記事は、日系企業にも大きな影響を及ぼす経済に関わる情報が圧倒的に多い。シンガポールだけでなく東南アジア域内（とりわけマレーシアとインドネシア）の通貨や株価変動、経済成長率、輸出・輸入額、日系企業の進出情報などが充実している。

また駐在員の配偶者やその子供たちにも日本語のメディアとして読まれていることから、教育や語学学習、グルメ、イベント、美容、日本語が使える病院やクリニックなどの情報も掲載されている。さらに人材派遣会社がスポンサーになっていることから、現地採用で働いている、あるいは希望する日本人への求人情報も掲載されている。日本と比べると好況のシンガポールでは、物価も高いが賃金も高く、転職や再就職のあっせんが行われている。

筆者はシンガポール国立大学で博士号を取得するために、2008 年から 2014 年まで同地で暮らした。もちろんシンガポールには立派な紀伊国屋がシンガポール高島屋店に入っており、日本で刊行されている新聞および週刊・月刊誌をほぼタイムリーに読むことができるが、価格が日本で買うよりも 2～3 倍程度高く設定されており、無料で読める「AsiaX」は貴重な情報源であった。さらに各大学同窓会、県人会、干支の会などの会合情報も含まれており、現地で暮らす日本人をつなげる役割を果たしていた。

1 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100436804.pdf>

2 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>